



2021年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月6日

上場会社名 株式会社パルマ
 コード番号 3461 URL <http://www.palma.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 2021年8月6日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 高野 茂久
 (氏名) 清水 誠一
 TEL 03-3234-0358

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第3四半期の連結業績(2020年10月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第3四半期	2,440		67		58		34	
2020年9月期第3四半期								

(注) 包括利益 2021年9月期第3四半期 34百万円 (%) 2020年9月期第3四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第3四半期	5.47	5.15
2020年9月期第3四半期		

(注) 2021年9月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年9月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第3四半期	4,699	2,122	45.1
2020年9月期			

(参考) 自己資本 2021年9月期第3四半期 2,121百万円 2020年9月期 百万円

(注) 2021年9月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年9月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期		0.00		8.00	8.00
2021年9月期		0.00			
2021年9月期(予想)				9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年10月1日～2021年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,450		357		327		226		35.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2021年9月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年9月期3Q	6,462,372 株	2020年9月期	6,214,000 株
期末自己株式数	2021年9月期3Q	275 株	2020年9月期	275 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年9月期3Q	6,366,690 株	2020年9月期3Q	6,209,392 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症拡大が長期化する中で、新型コロナウイルス感染症対策関連の政策や金融緩和政策の継続により、セルフストレージ利用や不動産等の投資市場の動向は、比較的安定した推移を見せており、このような情勢の中、期初の計画・施策に沿ってセルフストレージビジネス向けBPOの受託やセルフストレージ施設開発事業量の拡大を進めてまいりました。

加えて2018年に出資を受けた日本郵政キャピタル株式会社が属する日本郵政グループの日本郵便輸送株式会社の営業所跡地の有効活用として、株式会社アンティローザが開発運営する「AYASE AR GARAGE」（以下、「本件」）の開設を提案・紹介するなど、日本郵便グループとの具体的な業務連携・協力がスタートいたしました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は2,440,068千円となりました。損益面では、営業利益は67,855千円、経常利益は58,737千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は34,815千円となりました。

セグメントの経営成績は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来の単一セグメントから、「ビジネスソリューションサービス」と「ターンキーソリューションサービス」セグメントに、区分を変更しております。

【旧セグメント】	
セルフストレージ ビジネスソリューションプロバイダ 事業	サービス内容
	ビジネスソリューションサービス
	ITソリューションサービス
	ターンキーソリューションサービス

↓

【新セグメント】	
セグメント名	サービス内容
ビジネスソリューションサービス	ビジネスソリューションサービス
	ITソリューションサービス
ターンキーソリューションサービス	ターンキーソリューションサービス

(ビジネスソリューションサービス)

当サービスはセルフストレージ事業者向けに賃料債務保証を付加したアウトソーシングサービスやセルフストレージ運営効率化のためのITシステム開発・運用を行っております。

新型コロナウイルス感染症拡大長期化により、新規開拓・拡販に向けたセルフストレージ事業者へのリレーションシップセールスの機会の創出が限定的となっているものの、セルフストレージの利用増加基調や非対面・非接触によるコミュニケーション・オペレーション環境へのシフト等を背景に、既存顧客からの滞納保証付きアウトソーシングサービスやWEB予約決済・在庫管理システム「クラリス」の導入が堅調に推移し、当第3四半期末時点のサービス受託残高は93,318件（前年同期比8.3%増）と伸長しております。

以上の結果、売上高は738,197千円、営業利益は268,972千円となりました。

(ターンキーソリューションサービス)

当サービスは、各種投資家やセルフストレージ事業者等の顧客向けセルフストレージ物件の開発・販売・賃貸運用を行っております。当第3四半期におきましては、東京圏エリアにてセルフストレージ施設開発事業量の拡大を推進し、「大田区南馬込」「世田谷区上用賀」など6物件の開発用地の新規仕入を進めました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、当社開発施設「キーピット」2棟等の売却や、当社開発販売施設の安定運用化支援のためのマスターリース（一括借り上げ・空室保証・運営管理）の取組積極化により、売上高は1,701,870千円、営業損失は55,995千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産の部

当第3四半期連結会計期間末における総資産は4,699,255千円となりました。主な内訳は、現金及び預金2,732,486千円、販売用不動産337,781千円、仕掛販売用不動産1,095,792千円、求償債権261,975千円であります。

②負債の部

当第3四半期連結会計期間末における負債は2,577,043千円となりました。主な内訳は、短期借入金438,000千円、1年内返済予定の長期借入金271,650千円、未払金77,448千円、前受収益117,332千円、長期借入金1,469,110千円であります。

③純資産の部

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,122,212千円となりました。主な内訳は、資本金590,770千円、資本剰余金501,219千円、利益剰余金1,029,417千円であります。

自己資本比率は、45.14%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月14日発表の「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」にて開示いたしました2021年9月期の通期業績予想の変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2021年6月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	2,732,486
金銭の信託	1,350
売掛金	79,105
求償債権	261,975
販売用不動産	337,781
仕掛販売用不動産	1,095,792
その他	57,546
貸倒引当金	△141,313
流動資産合計	4,424,723
固定資産	
有形固定資産	52,716
無形固定資産	
のれん	28,997
その他	30,672
無形固定資産合計	59,670
投資その他の資産	162,145
固定資産合計	274,531
資産合計	4,699,255
負債の部	
流動負債	
短期借入金	438,000
1年内返済予定の長期借入金	271,650
未払金	77,448
未払法人税等	17,264
前受収益	117,332
その他	176,337
流動負債合計	1,098,033
固定負債	
長期借入金	1,469,110
その他	9,900
固定負債合計	1,479,010
負債合計	2,577,043
純資産の部	
株主資本	
資本金	590,770
資本剰余金	501,219
利益剰余金	1,029,417
自己株式	△132
株主資本合計	2,121,274
新株予約権	937
純資産合計	2,122,212
負債純資産合計	4,699,255

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
売上高	2,440,068
売上原価	1,739,792
売上総利益	700,275
販売費及び一般管理費	632,420
営業利益	67,855
営業外収益	
受取利息	19
受取配当金	702
債権売却益	1,525
助成金収入	7,117
その他	353
営業外収益合計	9,717
営業外費用	
支払利息	18,685
その他	150
営業外費用合計	18,835
経常利益	58,737
税金等調整前四半期純利益	58,737
法人税、住民税及び事業税	15,377
法人税等調整額	8,544
法人税等合計	23,921
四半期純利益	34,815
親会社株主に帰属する四半期純利益	34,815

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	34,815
四半期包括利益	34,815
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	34,815
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間（自 2020年10月1日 至 2021年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネス ソリューション サービス	ターンキー ソリューション サービス			
売上高					
外部顧客への売上高	738,197	1,701,870	2,440,068	—	2,440,068
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	738,197	1,701,870	2,440,068	—	2,440,068
セグメント利益又は損失 (△)	268,972	△55,995	212,976	△145,121	67,855

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△145,121千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用となります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、経営管理区分の見直しに伴い、ビジネスモデルの特性や類似性・関連性に基づき、報告セグメントを従来の「セルフストレージサービスプロバイダー」の単一セグメントから、「ビジネスソリューションサービス」及び「ターンキーソリューションサービス」の2区分を報告セグメントとしております。

また、当社は、令和エンジニアリング株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたため、同社を「ターンキーソリューションサービス」の報告セグメントとして追加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間より令和エンジニアリング株式会社を連結の範囲に含めております。

これにより、ターンキーソリューションサービスセグメントにおいて、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において10,976千円であります。

なお、この取得取引にかかる取得原価の配分が完了していないため、当該のれんの金額は暫定的に算定された金額であります。